

虫追い祭り【むしおいまつり】



当民俗芸能は諸事情により映像による取材を行っておりません。

開催場所

浮羽郡田主丸町大字田主丸
田主丸町内、浮羽郡内

開催日

11月
3年に1度実施、
次回は平成16年予定（期日未定）

【芸能の概要】

「虫追い祭」は1708（宝永5）年7月有馬藩の許可を得て行ったと伝えられており、当時は虫害による凶作のため年貢減免の意味が深かったが、明治末期以降においては、豊作を祝う祭りとしている。巨瀬川で虫追い人形（斉藤実盛、手塚光盛）2体を闘わしめるのを特色としており、現在はJAにじ田主丸地区青年部の手で3年に1度実施されている。

【芸能の特徴】

源平合戦のひとつ、北越前篠原の合戦で斉藤別当実盛と手塚太郎光盛が戦った際、斉藤別当実盛が稲の切り株につまずき転んで、手塚太郎光盛に討ち取られたので、それを恨んだ実盛の霊が虫の姿となって稲に害を与えるようになり、その霊を慰めるために、この祭りを行うようになった、と伝えられている。本来は稲の害虫を鉦、太鼓を打ち鳴らし、夜は松明をつけ追い払うのが目的であったが、江戸時代、虫追いをした地方は、害虫のせいで米のできが悪かるうということで、年貢が割り引かれなくなったこと、この虫追いは、表面は害虫退治であるが、その実、年貢をまけて貰うための行事であったといわれる。この祭りは古く江戸時代から田主丸地方で行われていたといわれ、約290年の歴史がある。第二次大戦後に途絶えていたが、昭和49年に、JA田主丸青年部・パイオニアクラブの手で復活させ、以来、3年毎に開催されている。次回は平成16年に開催される予定。

【使用する祭具・道具など】

竹とわらで作った馬を20数名の若者が担ぎ、人形が鉦、太鼓の囃子に合わせて練り歩く一種のケンカ祭り。クライマックスは、日暮れて行われる巨瀬川の中の合戦。たいまつの灯りの中で水しぶきがあがる合戦風景は勇壮である。鉦2、太鼓2。

・アクセス

JR 田主丸駅より徒歩5分巨瀬川（中央橋付近）

・周辺の観光

巨峰ワイン工場、平塚古墳公園、くじらの森、田主丸ふるさと会館
さざんか祭（2月）グリーン・フェスティバル（5月）
ぶどう祭り（8月）田主丸耳納の市（11月）

・近くの特産品

柿、麺、巨峰ワイン、焼酎

